

中部 だより

中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

MIE

観光客のための三重県の防災対策 ～安全面のおもてなし～

観光誘客における新たな課題

伊勢志摩サミットで大いに盛り上がりを見せた三重県。サミット開催決定を契機に宿泊者数は右肩上がりで伸び、平成27年の延べ宿泊者数は前年比で11.6%増の981万人泊を記録。中でも外国人延べ宿泊者数は114.7%増の38.3万人泊で、前年比での伸び率は全国4位を記録した。

三重県には今後ますます多くの観光客が訪れることが予想される。新規の観光客を増やし、そのリピーター化を図るため、食材・自然・歴史・文化・伝統などの様々な情報の発信や、さらなる受入環境の整備が必要であるが、観光客が安心して訪れることができる地域づくりにも取り組まなければならない。

観光誘客に携わる関係者からは「東日本大震災を境に、観光資源の魅力に加えて地震・津波対策など安全対策の実施状況も問われるようになってきた」との声も出てきており、観光地の安全・安心をPRできることが、観光地としてのブランド力を保ち、観光客を呼び込むための必須条件になりつつある。

観光客に向けた防災対策

三重県は、平成26年3月に「三重県新地震・津波対策行動計画」を策定した。この計画は主に「県民の命を守り抜く」という観点でテーマ設定されている。三重県には多数の観光客が訪れており、発災時には多数の被災者や帰宅困難者が生じる

恐れがあることから、観光客対策もそのテーマの一つに位置づけられ、様々な取り組みを進めている。

- ①観光事業者・団体や交通事業者等を対象とした防災対策研修、ワークショップ等の実施
- ②観光事業者・団体や基礎自治体等による観光客の安全を確保するための課題検討の場づくり



三重県の観光事業者向けパンフレット/提供:三重県



帰宅困難者対策のワークショップ/提供:鳥羽市

*鳥羽市では、市内の12旅館・ホテルと「災害時における帰宅困難者に対する支援に関する協定書」が締結された他、「帰宅困難者受入の手引き」も策定している。

- ③観光事業者・団体や基礎自治体等による観光客への対応を想定した避難訓練の実施
- ④外国人観光客向けの災害時を想定したコミュニケーションツールの作成
- ⑤地震・津波観測監視システム(DONET)を活用した津波予測・伝達システムの構築

おわりに

地域の創生に向けた取り組みが各地で進められ、観光誘客に向けた活動が積極化している。観光産業の振興は、地域の活性化に大きく貢献することが期待される。

一方、わが国は南海トラフ地震をはじめ、大規模災害のリスクに常に晒されていることを忘れてはならない。地域として観光誘客をしているのであれば、観光客を災害から守ることも地域の責務であり、これに失敗すれば、観光客が減少して地域経済が大きな打撃を受ける恐れがある。

中経連としても、観光誘客では昇龍道プロジェクト等との連携、防災では防災・減災に資する税制改正の要望等を通じて、地域の産業振興やまちづくりに貢献していきたい。

(三重担当 岡戸 信之)

取材協力:三重県(観光局、防災対策部)